10 月 30 日　トルコ、ギリシャの M7 の大地震について

今回のトルコの地震について、トルコの第 3 の都市で風光明媚なリゾート地でもあるイズミール市の沖合で 10 月 30 日に M7.0 の大地震が発生しました。多くの建物が壊れてたくさんの被害者が出ており、いままでトルコの地震予知に協力してきた我々としては大変残念であり、すこしでも早い復旧を願うばかりです。以下にトルコとのいままでの協力関係を記します。

＜位置関係＞

被害は建物の崩壊や津波も観測されています。

＜我々のトルコの地震予知に関するいままでの協力について＞

我々のトルコの地震予知へのいままでの協力は　ちょうどまさに今回の震源の近くのイズミールの会社と連携して行ってきました。イズミールの周辺と　少し離れたキプロス島に逆ラジオを合計 10 台も設置していましたが実はトルコ側の事情があって　ここ数年は装置があまり動いておらず、今回はまったく予知ができずに　ほんとうに残念でした。

　そもそもトルコの第 3 の都市のイズミールの､地元のちいさいソフト会社を紹介されて、彼らが　トルコ語で　日本の”くるかも”　という名をつかった地震サイトまでつくっており　我々も合計 4 度ほど訪問しています。彼らは　また電磁波だけでなく　そのほかのデータ、水位やラドン濃度などが総合的に測定する部屋を作って　トルコの防災庁に売り込んでいました。

＜イズミールの会社のあるオフィイスビル＞＜現地のスタッフと左は総合地震予知 BOX＞

また彼らの紹介もあって 2016 年 5 月に彼らと一緒にトルコの首都アンカラでトルコの防災庁が主催する地震のシンポジウムに出席して逆ラジオの発表もしました。

＜トルコの防災庁が主催する地震のシンポジウム＞＜当時の副首相と会場で握手＞

さらに　2017 年 4 月にキプロス島にある二アーイースト大学という在校生 2700 名ほどの大学の地震の研究室と提携して　逆ラジオを設置して地震予知の研究も開始しています。

＜キプロス島にある二アーイースト大学＞　＜キプロス TV の取材＞

しかしこれまでのトルコ側から聞いた話を総合すると　まず数年まえに　大手企業のスポンサーとの窓口だった年配の役員が病気で倒れてしまい、資金が滞ってしまったこと。

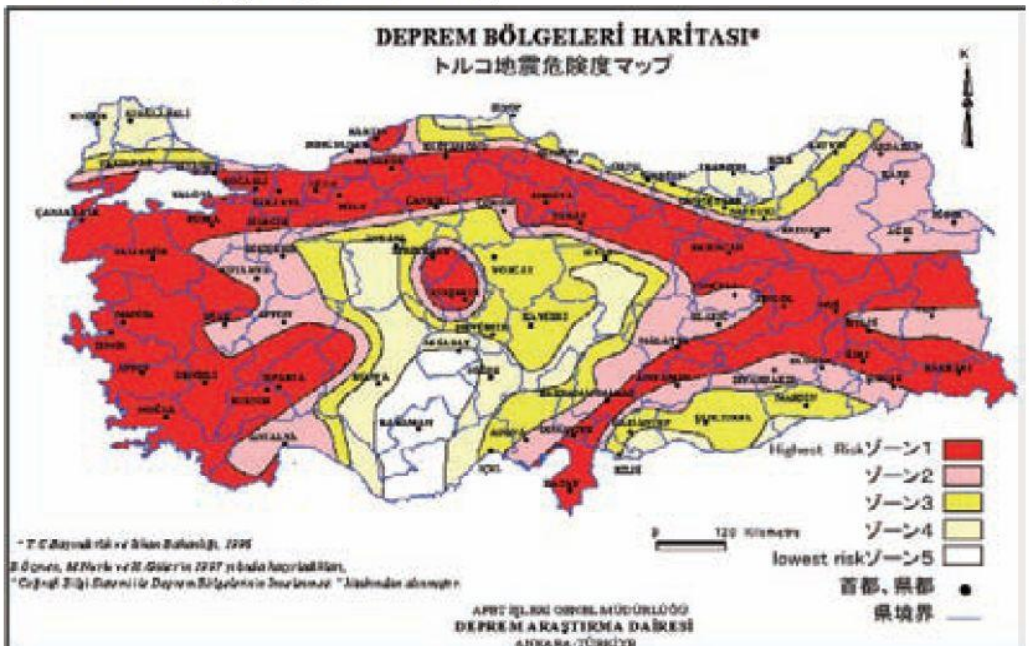
また当時は　現役の政治家の息子を使って　政府に彼らの総合的な地震予知システムを売り込んでいましたが　どうもこちらも　うまくいなかったようでした。

彼らが言うには　トルコは準先進国のような地位になっているが　いまだ政府の権力は強く、地震の予知を自由にビジネスにすることはむずかしい、あくまで政府―防災庁を通じて、活動しなければならない、そこで政治家や大手企業のスポンサーのコネを利用してい

くことが大事になる、とのこと。
我々もトルコの事情はよくわからないのですが　海外のビジネスは　言語や習慣、国の制度などの壁があって　地元のパートナーと組むことが良いと思います。しかし　まずそのパートナー探しから始まって、様々な障害をクリアしないとうまく行きません。
トルコの会社はまだ若いベンチャーでしたが　幸い、皆、まじめでトルコ国が親日家が多いことから　良いパートナーと思っていましたがどうも商売はあまりうまくなかったようで、またトルコ　リラの急な落下で経済危機もあったりして　地震予知ビジネスがうまく行かなかったようでした。

今回の地震は海側―エーゲ海を震源としています。しかしトルコの北部には東西に走る世界最大級のアナトリア断層があり常に警戒が必要です。

トルコ公共事業住宅省防災局地震研究部では、5 段階の地震危険度で国内をゾーニングしている。図 2.4 に全国地震危険度マップを示す。なお、このゾーン区分は、後述の Turkish Catastrophe Insurance Pool （TCIP）の地震保険における料率設定のためのゾーン区分にも用いられている。



今回は残念な結果でしたが　逆ラジオの装置は　すでに 10 台がトルコ側に設置してあり、この先、トルコ側の状況が好転したら　再度、トルコの地震予知ビジネスを復活させるように協力して行きたいと考えております。ご参考まで。